

誰もが働き続けられる社会をつくりたくて起業した。2008年、長女を妊娠中に産婦人科の母親学級で「仕事は辞めようと思う」「夫が長時間労働で、育児と仕事の両立は無理」との声をたくさん聞いた。一方で「続けられるなら続けたい」「後輩の育成を任されて、仕事が面白くなった頃なのけど…」とも。育児と仕事の両立って、こんなに難しいものなの？ と社会に目が向いた。

私が新卒で入社した航空会社はシフト勤務で、月に7〜8日の宿泊を伴う働き方だったが、1998年当時から育児を経て働く先輩が多かった。私も同様に復職。会社を見ると、サポートし合う風土と両立支援の制度、人材育成の仕組みがあった。

2012年、日本は今後、労働力不足になる。全員で残業せずに成果を出す生産性の高い働き方に変えることができる、育児や介護など仕事と両立できて、働き続けられる人が増える。それは個人や組織、社会に必要なことではないだろうか！。そう思い起業した。

創業当初から伝え続けていることがある。ワークライフバランスとは、ワークとライフの相乗効果。一部の社員の特権ではない。自己研さんや健康管理、趣味の時間も全て「ライフ」だから、全員が対象。ライフでの経験は、一人の消費者としてニーズを感じる貴重な時間。それがワークに生きると斬新な発想や問題解決につながり、自分の中から理想のビジョンが湧き上がる。それを意識しているか否かは、個人と組織の成長に影響する。

誰もが自分のライフステージの経験から学び、困難を感じた時には相談して解決策を出し合い、チームでは高い質で働き続けられる。そんな持続可能な組織は、風土と制度と仕組みと愛があればつくることができる。(株式会社Life is Love代表、組織開発コンサルタント)